

■政治的教養を育む教育の取組

「日常の指導を通じた啓発活動」

1 ねらい

身近で行われている政治を題材に、正しい選挙参加及び地方自治の在り方等について興味・関心を引き出すことをねらいとしている。

2 内容

- (1) 道議会だよりの教室掲示
- (2) 選挙公示後の政治的活動の内容周知
- (3) 有権者セミナーの実施（第2学年）
- (4) 地方自治や街づくりに係る協力及び考察

3 具体的な取組

- (1) 道議会だよりの教室掲示（全校生徒対象）
毎年4半期ごとに発行される道議会だより「みんなの道議会」を教室及び廊下に掲示し、身近な道政について関心を深める契機としている。
- (2) 選挙公示後の政治的活動の内容周知（全校生徒対象）
衆参議員選挙や地方自治首长議会議員選挙の公示以降、全校集会や各ホームルーム、保護者を通じ、選挙違反の例や政治活動の例などを示した文書を配布・説明し、正しい政治参加が促されるよう啓発している。
- (3) 有権者セミナーの実施（第2学年対象）
毎年2月、2学年生徒を対象に「総合的な学習の時間」の一環として、紋別市の選挙管理委員会から講師を招き、有権者としての心構えや、投票に対する意識付け、期日前投票のしくみなどについて講話を行っている。
- (4) 地方自治や街づくりに係る協力及び考察
総合ビジネス科「課題研究」、第2学年「政治・経済」及び第3学年「現代社会」の授業を通じて地方自治のしくみや現状、課題を学び、どのように改善することができるかについて具体的な取組やアイデアを挙げさせながら学習を行っている。特に、総合ビジネス科では、課題研究を通じて市内の企業や官公庁の協力を得て商品開発や観光企画のプランニングなどについて研究と実践を行っている。

4 工夫と課題

政治に興味・関心を向けさせようという取組のなかで一番肝要なのは、自らの生活とどれだけ関連付けさせられるかという点である。地方自治や市の取組などの一例を紹介することを通じて自治を身近に感じさせる取組はもちろん、疑問に感じる力や新たな発想を生み出す力を同時に育むために、特定の学科や教科に限らず、教科横断的な取組として日常的にアプローチし、思考を深化させる方法を今後も検討していく必要がある。

5 生徒の感想

- 地元の活性化などについて考えると、人口減少や若者の都市への流出という別の課題にも気付くことができた。
- 選挙に行くことで自分の意思をしっかりと表すことが大事だと思った。
- SNSなどはよく使うので、選挙違反にならないように十分に気を付けたいと思った。

6 活動の様子



（道議会だよりの掲示）



（有権者セミナー）



（課題研究発表会）